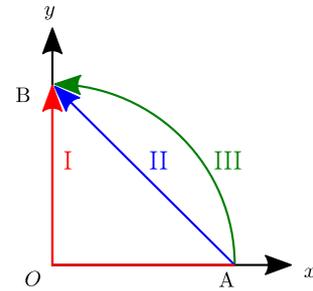


氏名 _____

学籍番号 _____

問 1. 質点が $F_x = axy, F_y = by^2$ の力を受けている. この質点が点 A から点 B まで運動する. 点 A および点 B の座標はそれぞれ $(R, 0), (0, R)$ である. このとき, 以下の間に答えよ.

1. 線分 AO, OB を通るとき (経路 I), 力のなす仕事を求めよ.
2. 線分 AB を通るとき (経路 II), 力のなす仕事を求めよ.
3. 半径 R の弧 AB を通るとき (経路 III), 力のなす仕事を求めよ.



解答

仕事の定義を元に, 経路積分を行う.

1.

$$W = \int_I F_x dx + F_y dy \tag{1}$$

$$= \int_{AO} F_x dx + F_y dy + \int_{OB} F_x dx + F_y dy \tag{2}$$

$$= \int_R^0 F_x dx + \int_0^R F_y dy \tag{3}$$

$$= \int_R^0 0 dx + \int_0^R by^2 dy \tag{4}$$

$$= \frac{R^3}{3}b \tag{5}$$

x 軸上では $dy = 0$, y 軸上では $dx = 0$ を用いた. また, x 軸上では $y = 0$ より, $F_x = axy = 0$ である.

2. y を x を用いて表すと, $y = R - x$ となる. これより, $dy = -dx$. これより, 仕事は以下のように計算できる.

$$W = \int_I F_x dx + F_y dy \tag{6}$$

$$= \int_0^R (a(R - y)y \cdot (-1) + by^2) dy \tag{7}$$

$$= \int_0^R (-aRy + (a + b)y^2) dy \tag{8}$$

$$= -aR \frac{R^2}{2} + (a + b) \frac{R^3}{3} \tag{9}$$

$$= \frac{R^3}{6} (-a + 2b) \tag{10}$$

なお, パラメータ変数を用いるのであれば $x = t, y = R - t$ とおいて, $dx = dt, dy = -dt$ として計算する.

3. 極座標で表現すると,

$$x = R \cos \theta, \quad y = R \sin \theta \tag{11}$$

と書ける. これより, x, y の微分は

$$dx = -R \sin \theta d\theta, \quad dy = R \cos \theta d\theta \tag{12}$$

となる. これより, 仕事は以下のように計算できる.

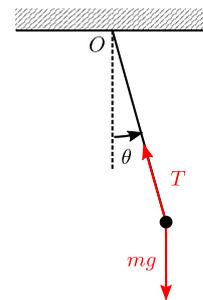
$$W = \int_{III} F_x dx + F_y dy \tag{13}$$

$$= \int_0^{\pi/2} (-aR^2 \cos \theta \sin \theta \cdot R \sin \theta + bR^2 \sin^2 \theta \cdot R \cos \theta) d\theta \tag{14}$$

$$= R^3 (-a + b) \int_0^{\pi/2} \cos \theta \sin^2 \theta d\theta \tag{15}$$

$$= \frac{R^3}{3} (-a + b) \tag{16}$$

問 2. 図に示すような振り子を考える．ひもの長さは L で，質量は無視できるものとする．ひもと鉛直方向がなす角度を θ とおく．また，質点の質量を m ，重力加速度を g ，ひもの張力を T とする．時刻 $t = 0$ において， $\theta = 0, \dot{\theta} = \omega_0$ とする．



1. ひもの固定端を原点 O とする極座標を考え，半径方向の運動方程式を書け．
2. 張力 T を $m, L, g, \theta, \dot{\theta}$ を用いて表せ．
3. $\theta = 0$ のとき，位置エネルギー $U = 0$ とする．角速度 $\dot{\theta}$ で運動しているときの力学的エネルギーを求めよ．
4. 力学的エネルギー保存の法則より，張力 T を $m, L, g, \theta, \omega_0$ で表せ．
5. 張力 T が最大となるときの， θ の値を求めよ．

解答

1. 半径方向の運動方程式は，

$$F_r = m(\ddot{r} - r\dot{\theta}^2) \quad (17)$$

$F_r = -T + mg \cos \theta$ ， $r = L$ (一定) より，

$$-T + mg \cos \theta = -mL\dot{\theta}^2 \quad (18)$$

2.

$$T = mL\dot{\theta}^2 + mg \cos \theta \quad (19)$$

3. 速度 v と角速度 $\dot{\theta}$ の関係， $v = L\dot{\theta}$ を用いると，運動エネルギーは次式で表される．

$$K = \frac{1}{2}mL^2\dot{\theta}^2 \quad (20)$$

位置エネルギーは以下の通りである．

$$U = mgL(1 - \cos \theta) \quad (21)$$

よって，力学的エネルギーは

$$K + U = \frac{1}{2}mL^2\dot{\theta}^2 + mgL(1 - \cos \theta) \quad (22)$$

となる．

4.

力学的エネルギー保存の法則より，次式が成立する．

$$\frac{1}{2}mL^2\dot{\theta}^2 + mgL(1 - \cos \theta) = \frac{1}{2}mL^2\omega_0^2 \quad (23)$$

式 (19) から，式 (23) を用いて $\dot{\theta}$ を消去すると，次式を得る．

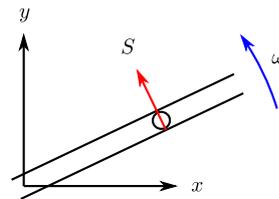
$$T = mL\omega_0^2 + mg(-2 + 3 \cos \theta) \quad (24)$$

5. 式 (24) より，張力 T が最大となるのは， $\cos \theta = 1$ のときである．このとき， $\theta = 0$ である．

問 3. 筒の中に質量 m の質点 (小さな球) がある. この筒を原点を中心に水平面内で一定の角速度 ω で回転させる. 筒と質点には摩擦は作用しないと仮定する. 時刻 t において, 原点からの距離 r , および筒が質点に与える力 S はそれぞれ次式で与えられる.

$$r = r_0 \cosh \omega t$$

$$S = 2mr_0\omega^2 \sinh \omega t$$



ここで, r_0 は定数である. 以下の問に答えよ.

1. 時刻 $t = 0$ における運動エネルギーを求めよ.
2. 時刻 $t = \bar{t}$ における運動エネルギーを求めよ.
3. 時刻 $t = 0$ から $t = \bar{t}$ の間に筒が質点にした仕事を求めよ.
4. 時刻 $t = 0$ から $t = \bar{t}$ の間に増加した運動エネルギーと筒が質点にした仕事が等しいことを確認せよ.

解答

1. まず, 時刻 t における速度を考える. 半径方向の速度は,

$$\dot{r} = r_0\omega \sinh \omega t \quad (25)$$

である. 周方向の速度は,

$$r\omega = r_0\omega \cosh \omega t \quad (26)$$

である. よって, 運動エネルギーは次式で表される.

$$K = \frac{m}{2} (\dot{r}^2 + (r\omega)^2) \quad (27)$$

$$= \frac{m}{2} [r_0^2\omega^2 (\sinh^2 \omega t + \cosh^2 \omega t)] \quad (28)$$

特に, $t = 0$ のとき, 運動エネルギーは

$$K = \frac{1}{2}mr_0^2\omega^2 \quad (29)$$

となる.

2. 式 (28) に $t = \bar{t}$ を代入すると次式を得る.

$$K = \frac{1}{2}mr_0^2\omega^2 (\sinh^2 \omega \bar{t} + \cosh^2 \omega \bar{t}) \quad (30)$$

3. 筒が質点に与える力は常に周方向である.

$$W = \int_0^{\bar{t}} \mathbf{F} \cdot \dot{\mathbf{r}} dt \quad (31)$$

$$= \int_0^{\bar{t}} S r \omega dt \quad (32)$$

$$= \int_0^{\bar{t}} 2mr_0^2\omega^3 \cosh \omega t \sinh \omega t dt \quad (33)$$

ここで, $u = \sinh \omega t$ とおく. $\bar{u} = \sinh \omega \bar{t}$ とおく. 微分は $du = \omega \cosh \omega t dt$ となる.

$$W = 2mr_0^2\omega^2 \int_0^{\bar{t}} \sinh \omega t (\omega \cosh \omega t) dt \quad (34)$$

$$= 2mr_0^2\omega^2 \int_0^{\bar{u}} u du \quad (35)$$

$$= mr_0^2\omega^2 [u^2]_0^{\bar{u}} \quad (36)$$

$$= mr_0^2\omega^2 \bar{u}^2 \quad (37)$$

$$= \underline{mr_0^2\omega^2 \sinh^2 \omega \bar{t}} \quad (38)$$

4. 式 (30) から式 (29) を引くと運動エネルギーの増分を得る.

$$\Delta K = \frac{1}{2}mr_0^2\omega^2 (\sinh^2 \omega \bar{t} + \cosh^2 \omega \bar{t} - 1) \quad (39)$$

$$= mr_0^2\omega^2 \sinh^2 \omega \bar{t} \quad (40)$$

ここで, $\cosh^2 \theta - \sinh^2 \theta = 1$ の関係式を用いた.

以上より, 運動エネルギーの増加量と仕事が等しいことが分かる.